

復興まちづくりの取組方針（案）

1.地区の現状総括

伊豆山土石流災害により、かけがえのない尊い命と住まいなどを失い、地域のつながりなども途絶えた状況にある。一方、伊豆山の自然や地形、歴史など後世に継承するものもあり、帰郷を視野に入れ災害危険性や地域の持続性等について課題を抱えている状況にある。

2.復興まちづくりの課題

地区の現状を踏まえ、復興まちづくりに向けた課題を抽出すると以下のようになる。

- ①克服するもの 『新たな機能の創出』：災害への不安解消に資する防災機能の拡充や地域のコミュニティや交流の受け皿となる新たな場の創出
- ②再生するもの 『地区の再生』：平穏な日常や心の安寧、故郷での生活・伊豆山の絆や活気を再生
- ③改善するもの 『住環境の改善』：被災前から地区が抱える道路環境等の改善
- ④継承するもの 『後世への継承』：美しい伊豆山の自然、伊豆山神社との精神的・物理的なつながり、故郷の記憶や思い出の後世への継承

3.復興まちづくりの取組方針

課題の解決に向けて被災地区で取り組むべきハード施策の方向性を復興まちづくり取組方針として整理した。

地区の現状			復興まちづくりの課題		復興まちづくり取組方針
基本目標	分野	事物・事象	類型	事物・事象	概要
安心・安全の確保	災害危険性	土石流の再発	①克服するもの	源頭部の安全性	源頭部の安全対策
		土石流の防護		土砂災害防止機能	砂防堰堤の整備
		逢初川の氾濫		逢初川の治水安全度	逢初川の河川改修
	住まい、故郷	故郷(離郷)	②再生するもの	故郷での生活	源頭部の安全対策、砂防堰堤の整備、逢初川の河川改修
ライフライン	電気、上下水道、ガス		日常生活を支える社会資本	ライフラインの再整備(上下水道・電気・ガス等)	
	従前課題	狭い道路	③改善するもの	道路環境	消火活動や防災上リスクとなる地区内道路の整備
速やかな生活再建	住まい、故郷	住宅被害	②再生するもの	安心して暮らし続けられる住宅 家族団らん	安全な宅地(現地再建の基盤)の整備 被災者向け住宅の整備
	地域のつながり	近所付き合い・集住		伊豆山の絆、活気	被災者向け住宅の整備
		通学路の連続性		通学路の安全性	歩行空間の確保
	伊豆山の自然	山に囲まれ海に開けた地形 海への眺望	④継承するもの	美しい伊豆山の自然	岩戸山からつらなる緑豊かな丘陵を背負い前面に相模灘に広がる地形を活かした整備
暮らしの痕跡	庭木・石垣		故郷の思い出、災害の記憶	土石流に耐えて残った庭木や石垣等の一部の保全・活用の検討	
創造的復興	地域の持続性	高齢化や孤独化の進行	①克服するもの	多世代や逢初川上下流、 来訪者等の交流の受け皿となる場	共有地の再生、祈りの場の確保
	地域の拠り所	岸谷倶楽部	②再生するもの	地域内外の交流の場	共有地の再生（岸谷倶楽部再整備に合せた憩いや交流機能・空間の確保）
		消防第4分団詰所			祈りの場の確保（詰所の再整備に合せた小広場等の整備）
		旧逢初橋			絆再生の象徴
	地域のつながり	町内会		伊豆山の絆、活気	共有地の再生、祈りの場の確保
	由緒ある伊豆山の歴史	伊豆山神社(本殿、参道、走り湯)	④継承するもの	伊豆山神社とのつながり (精神的・物理的)	参道につながる小径の有効活用
般若院		伊豆山神社と般若院を結ぶ古道の保全・活用			
お地藏さん					故郷の思い出、災害の記憶

【参考資料】

本資料は、被災地区で取り組むべきハード施策の方向性を復興まちづくりの取組方針として地区の現状・課題から再整理したものである。

①克服するもの
【砂防堰堤の整備】
既設堰堤の下流に新規に砂防堰堤を整備。



②再生するもの
【通学路の安全性確保】
伊豆山小学校の通学路（伊豆山神社線）の安全な歩行者空間を確保する。

般若院
伊豆山神社を管理するために置かれた別当寺「走湯山東明寺」が前身。



伊豆山神社
源頼朝と北条政子が結ばれた場所で縁結びの神社。
例大祭の神輿渡御は、参道を下り浜公園付近で神楽を奉納後、岸谷地区を上り宮入りする。

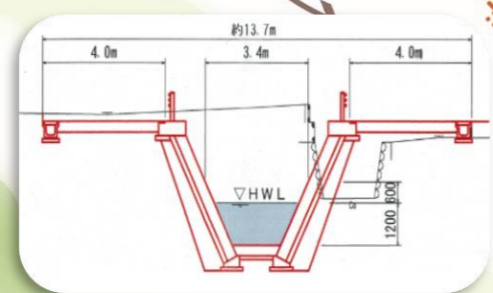


③改善するもの
【地区内道路の整備】
逢初川沿いの道路のほか、地区内道路の整備を行い、日常利便性と災害安全性を確保。

- 検討が必要な地区内道路
- ・岸谷本線 ・岸谷1号線 ・岸谷2号線
 - ・岸谷参道線・岸谷4号線・的場1号線

②再生するもの
【共有地の再生】
被災した地区のコミュニティ施設「岸谷倶楽部」の再整備にあたっては、市の協力も視野に入れ、地区の憩いや交流の場となる機能の確保を現位置やその他の場所で検討。

①克服するもの
【逢初川の改修】
川幅の拡幅となめらかな線形化等により治水安全度を向上。



伊豆山神社参道
837段の階段、桜並木、海の眺望

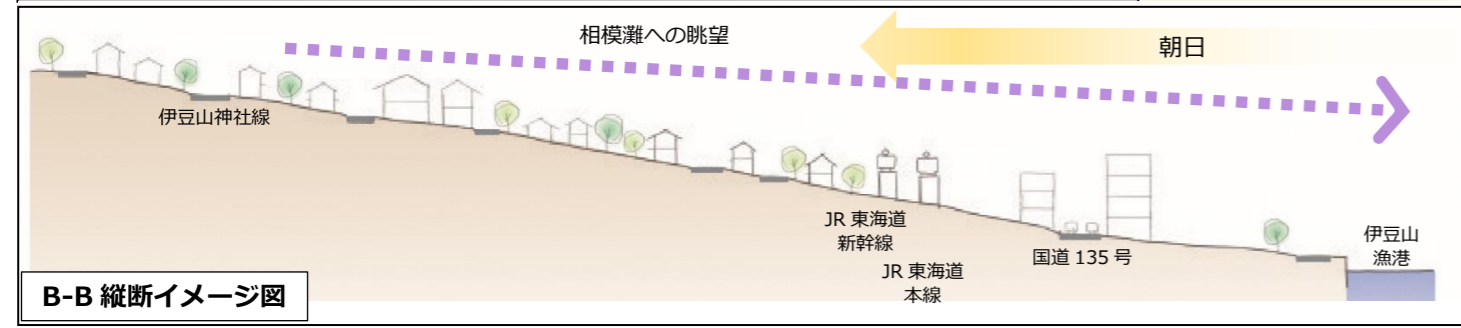
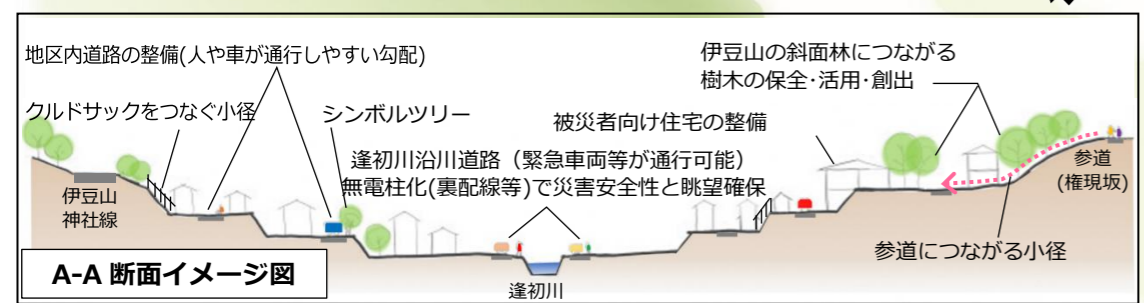


④継承するもの
【故郷の記憶の継承】
被災を免れた庭木や石垣など一部の保全・活用により、故郷の思い出や災害の記憶を継承する。

④継承するもの
【現地形を活かした整備】
現状の地形の起伏に沿った整備を基本とし、大規模な構造物が生じないようにする。

②再生するもの
【安全な宅地の整備】
住宅再建を可能とする安全な宅地を整備する。

②再生するもの
【被災者向け住宅の整備】
被災者が入居できる住宅の検討。当該住宅の位置・規模は、土地や地形の状況等を踏まえ検討。



②再生するもの
【祈りの場】
逢初橋周辺に小広場等を確保し、祈りの場、地域内外の交流の場として活用。

②再生するもの
【参道につながる小径】
伊豆山神社の参道につながる既存の歩行者経路(小径)は、住民や来訪者の回遊動線として有効活用(例:案内看板や舗装の高質化等)。

